食品安全委員会の運営について（平成29年1月～3月）

1. 食品安全委員会の開催

1月：第634回～第636回

(1) 食品健康影響評価の要請案件

農薬（2品目）	<ul style="list-style-type: none"> ・エトフェンプロックス ・ジベレリン
農薬及び動物用医薬品（2品目）	<ul style="list-style-type: none"> ・シペルメトリン ・フェニトロチオン
遺伝子組換え食品等（3品目1案件）	<ul style="list-style-type: none"> ・絹糸抽出期における高雌穂バイオマストウモロコシMON87403系統 ・TRP-No.2株を利用して生産されたL-トリプトファン ・組換えDNA技術応用食品及び添加物の安全性審査の手続（平成12年厚生省告示第233号）の改正について ・NZYM-BE株を利用して生産されたグルコアミラーゼ

(2) 食品健康影響評価の結果通知案件

農薬（3品目）	<ul style="list-style-type: none"> ・フルチアセトメチル <u>ADIを0.001 mg/kg 体重/日と設定し、ARfDは設定する必要がないと判断。</u> ・トリホリン <u>ADIを0.023 mg/kg 体重/日、ARfDを1.5 mg/kg 体重と設定。</u> ・ピリダリル <u>ADIを0.028 mg/kg 体重/日と設定し、ARfDは設定する必要がないと判断。</u>
動物用医薬品（2品目）	<ul style="list-style-type: none"> ・ジクラズリルを有効成分とする牛の強制経口投与剤（ベコクサン） <u>本製剤が適切に使用される限りにおいては、食品を通じてヒトの健康に影響を与える可能性は無視できると考えられる。</u> ・酢酸メレンゲステロール <u>ADIを0.025 μg/kg 体重/日と設定。</u>
プリオン（1案件）	<ul style="list-style-type: none"> ・オーストリアから輸入される牛、めん羊及び山羊の肉及び内臓 <u>月齢制限とSRMの範囲について、リスクの差は、非常に小さく、人への健康影響は無視できる。</u>

<p>遺伝子組換え食品等（2品目1案件）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 除草剤ジカンバ及びグルホシネート耐性トウモロコシMON87419系統（食品） <u>『遺伝子組換え食品（種子植物）の安全性評価基準』に基づき評価した結果、ヒトの健康を損なうおそれはないと判断。</u> ・ 除草剤ジカンバ及びグルホシネート耐性トウモロコシMON87419系統（飼料） <u>『遺伝子組換え飼料及び飼料添加物の安全性評価の考え方』に基づき評価した結果、改めて『遺伝子組換え食品（種子植物）の安全性評価基準』に準じて安全性評価を行う必要はなく、当該飼料を摂取した家畜に由来する畜産物について安全上の問題はないと判断。</u> ・ 組換えDNA技術応用食品及び添加物の安全性審査の手続（平成12年厚生省告示第233号）の改正について <u>食品安全基本法第11条第1項第2号の人の健康に及ぼす悪影響の内容及び程度が明らかであるときに該当する。</u>
<p>薬剤耐性菌（1品目）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家畜に使用する硫酸コリスチン <u>評価対象抗菌性物質である硫酸コリスチンが、動物用医薬品又は飼料添加物として家畜に使用された結果としてハザードが選択され、これらの家畜由来の畜産食品を介してヒトがハザードに暴露され、ヒト用抗菌性物質による治療効果が減弱又は喪失する可能性は否定できず、総合的にリスクを推定した結果、リスクの程度は中等度であると考えた。</u>

(3) その他

- ・ 新委員の紹介
- ・ 食品安全関係情報（11月12日～12月9日収集分、12月10日～12月28日収集分）について報告
- ・ 平成27年度食品安全モニター課題報告「食品の安全性に関する意識等について」の結果（平成28年3月実施）について報告
- ・ 企業申請品目に係る食品健康影響評価についての標準処理期間の達成状況について報告

2月：第637回～第640回

(1) 食品健康影響評価の要請案件

農薬（2品目）	<ul style="list-style-type: none"> ・シアントラニリプロール ・トリフルメゾピリム
農薬及び動物用医薬品（1品目）	<ul style="list-style-type: none"> ・フルバリネート
動物用医薬品（1品目1案件）	<ul style="list-style-type: none"> ・酢酸メレンゲステロール ・食品衛生法（昭和22年法律第233号）第11条第1項の規定に基づき定められた、食品、添加物等の規格基準（昭和34年厚生省告示第370号）のジエチルスチルベストロール試験法の改正、酢酸メレンゲステロール試験法の追加
遺伝子組換え食品等（2品目）	<ul style="list-style-type: none"> ・除草剤グリホサート及びグルホシネート耐性トウモロコシMZ HGOJG系統（食品） ・除草剤グリホサート及びグルホシネート耐性トウモロコシMZ HGOJG系統（飼料）

(2) 食品健康影響評価の結果通知案件

農薬（8品目）	<ul style="list-style-type: none"> ・E P N <u>ADIを0.0014 mg/kg 体重/日、ARfDを0.0066 mg/kg 体重と設定。</u> ・メタアルデヒド <u>ADIを0.022 mg/kg 体重/日、ARfDを0.3 mg/kg 体重と設定。</u> ・ジフェノコナゾール <u>ADIを0.0096 mg/kg 体重/日、ARfDを0.25 mg/kg 体重と設定。</u> ・シフルメトフェン <u>ADIを0.092 mg/kg 体重/日と設定し、ARfDは設定する必要がないと判断。</u> ・ピリフルキナゾン <u>ADIを0.005 mg/kg 体重/日、一般の集団に対するARfDを1 mg/kg体重、妊婦又は妊娠している可能性のある女性に対するARfDを0.05 mg/kg 体重と設定。</u> ・D C I P <u>ADIを0.027 mg/kg 体重/日、ARfDを0.5 mg/kg 体重と設定。</u> ・シアナジン <u>ADIを0.00053 mg/kg 体重/日、ARfDを0.045 mg/kg 体重と設定。</u>
---------	--

	<ul style="list-style-type: none"> ・ピリベンカルブ <u>ADIを0.039 mg/kg 体重/日、ARfDを1.1 mg/kg 体重と設定。</u>
農薬及び動物用医薬品 (1品目)	<ul style="list-style-type: none"> ・ジノテフラン <u>ADIを0.22 mg/kg 体重/日、ARfDを1.2 mg/kg 体重と設定。</u>
動物用医薬品 (3品目1 案件)	<ul style="list-style-type: none"> ・豚繁殖・呼吸障害症候群生ワクチン(フォステラPRRS) <u>本製剤が適切に使用される限りにおいては、食品を通じてヒトの健康に影響を与える可能性は無視できると考えられる。</u> ・ガミスロマイシンを有効成分とする豚の注射剤 (ザクトランメリアル) <u>本製剤が適切に使用される限りにおいては、食品を通じてヒトの健康に影響を与える可能性は無視できると考えられる。</u> ・酢酸メレンゲステロール <u>平成21年10月8日付け委員会決定の1の(1)に当たるものとして、食品安全基本法第11条第1項第2号の人の健康に及ぼす悪影響の内容及び程度が明らかであるときに該当すると認められる。</u> ・食品衛生法(昭和22年法律第233号)第11条第1項の規定に基づき定められた、食品、添加物等の規格基準(昭和34年厚生省告示第370号)のジエチルスチルベストロール試験法の改正、酢酸メレンゲステロール試験法の追加 <u>食品安全基本法第11条第1項第1号の食品健康影響評価を行うことが明らかに必要でないときに該当することを確認。</u>
特定保健用食品(1品目)	<ul style="list-style-type: none"> ・ピュアカム葉酸、ピュアカム葉酸MV ・疾病リスク低減表示特定保健用食品の葉酸(プテロイルモノグルタミン酸)に係る安全性評価の基本的考え方 <u>疾病リスク低減表示特定保健用食品の葉酸(プテロイルモノグルタミン酸)に係る安全性評価の基本的考え方に基づき、ピュアカム葉酸及びピュアカム葉酸MVについては、妊婦又は妊娠を考えている女性が一日摂取目安量を守り、摂取期間を妊娠3か月までに限るのであれば、安全性に問題はないと判断。</u>

(3) その他

- ・「自ら評価」の審議の結果、以下のとおり決定。
 - ①本年度の「自ら評価」の対象とすべきものはない。
 - ②「カフェイン」について、積極的に情報収集、情報提供を行う。
 - ③「カンピロバクター」について、リスク管理機関と引き続き連携し、関係情報の収集を行う。
- ・平成29年度食品安全委員会緊急時対応訓練計画を決定
- ・平成28年度食品健康影響評価技術研究課題の中間評価結果及び平成29年度食品健康影響

評価技術研究の新規対象課題を決定

- 平成29年度食品安全確保総合調査課題を決定
- 食品安全関係情報（12月29日～1月20日収集分、1月21日～2月3日収集分）について報告

3月：第641回～第644回

(1) 食品健康影響評価の要請案件

<p>添加物（4品目1案件）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・食品添加物公定書の改正に伴う「食品、添加物等の規格基準」の改正等に関する事項について ・過酢酸 ・過酢酸製剤 ・硫酸アルミニウムアンモニウム ・硫酸アルミニウムカリウム 	
<p>農薬（31品目）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・1, 3-ジクロロプロペン ・ピフルブミド ・メタラキシル及びメフェノキサム <p>(一括削除)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2-(1-ナフチル)アセタミド ・Sec-ブチルアミン ・エンドタール ・オキシカルボキシ ・クロジナホップ酸 ・シクロエート ・テルブトリン ・ナフタロホス ・ブトロキシジム ・フルプロパネート ・ペブレート ・ホスファミドン ・硫化カルボニル <ul style="list-style-type: none"> ・シアノホス (CYAP) ・フルキサメタミド ・レピメクチン ・2,2-DPA (DPA) ・イマザメタベンズメチルエステル ・オキサベトリニル ・カルベタミド ・クロロネブ ・テブチウロン ・トリフロキシスルフロ ・ピリチオバックナトリウム塩 ・フラチオカルブ ・フロラスラム ・ベンスリド (SAP) ・メトスラム 	
<p>農薬及び動物用医薬品（4品目）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・テフルベンズロン <p>(一括削除)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アザメチホス ・フェノトリン ・テトラクロルビンホス (CVMP) 	
<p>動物用医薬品（28品目）</p>	<p>(一括削除)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アスポキシシリン ・オキサシリン ・脂肪族アルコールエトキシレート ・スルファグアニジン ・スルファトロキサゾール ・スルファニルアミド ・スルファブロモメタジンナトリウム ・スルファメトキシピリダジン ・セファセトリル ・トリペレナミン ・バクイノレート ・ハロクソン ・塩酸メトセルペイト ・キタサマイシン ・スルファエトキシピリダジン ・スルファセタミド ・スルファニトラン ・スルファピリジン ・スルファベンズアミド ・スルファメラジン ・テメホス ・ノボビオシン ・バクイロプリム ・ファムフル 	

	<ul style="list-style-type: none"> ・フェンプロスタレン ・メチルベンゾクエート(ネクイネート) ・ポリミキシンB ・ライドロマイシン
汚染物質等（1案件）	<ul style="list-style-type: none"> ・食品衛生法（昭和22年法律第233号）第11条第1項の規定に基づき定められた、食品、添加物等の規格基準（昭和34年厚生省告示第370号）の清涼飲料水のヒ素の試験法からのグットツァイト法の削除
遺伝子組換え食品等（3品目）	<ul style="list-style-type: none"> ・カイマックス M（CHY-MAX M） ・Glu-No.9株を利用して生産されたL-グルタミン酸ナトリウム ・RITE-A5株を利用して生産されたL-アラニン

（2）食品健康影響評価の結果通知案件等

添加物（1案件）	<ul style="list-style-type: none"> ・食品添加物公定書の改正に伴う「食品、添加物等の規格基準」の改正等に関する事項について <u>照会案件については、試験の操作性の改善若しくは精度の向上等を目的とした試験法の変更、名称の変更又は用語若しくは用例の統一等による規格基準の改正であり、規格値の変更を伴うものではないことから、食品安全基本法第11条第1項第1号の食品健康影響評価を行うことが明らかに必要でないときに該当することを確認。</u> <u>リスク評価案件については、実質的に規格値が緩和されるものではないことから、食品安全基本法第11条第1項第2号の人の健康に及ぼす悪影響の内容及び程度が明らかであるときに該当することを確認。</u>
農薬（33品目）	<ul style="list-style-type: none"> ・キャプタン <u>ADIを0.1 mg/kg 体重/日、一般の集団に対するARfDを3 mg/kg 体重、妊婦又は妊娠している可能性のある女性に対するARfDを0.3 mg/kg体重と設定。</u> ・フェンキノトリオン <u>ADIを0.0016 mg/kg 体重/日と設定し、ARfDは設定する必要がないと判断。</u> ・フロメトキン <u>ADIを0.008 mg/kg 体重/日、ARfDを0.044 mg/kg 体重と設定。</u> ・ホルペット <u>ADIを0.1 mg/kg 体重/日、妊婦又は妊娠している可能性のある女性に対するARfDを0.1 mg/kg 体重と設定し、一般の集団に対するARfDは設定する必要がないと判断。</u> ・マンジプロパミド <u>ADIを0.05 mg/kg 体重/日と設定し、ARfDは設定する必要がないと判断。</u>

	<ul style="list-style-type: none"> ・メピコートクロリド <u>ADIを0.3 mg/kg 体重/日、ARFDを0.3 mg/kg 体重と設定。</u> ・ピラジフルミド <u>ADIを0.021 mg/kg 体重/日と設定し、ARFDは設定する必要がないと判断。</u> ・マイクロブタニル <u>ADIを0.024 mg/kg 体重/日、一般の集団に対するARFDを2.4 mg/kg 体重、妊婦又は妊娠している可能性のある女性に対するARFDを0.31 mg/kg 体重と設定。</u> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <ul style="list-style-type: none"> ・2-(1-ナフチル)アセタミド ・Sec-ブチルアミン ・エンドタール ・オキシカルボキシ ・クロジナホップ酸 ・シクロエート ・テルブトリン ・ナフタロホス ・ブトロキシジム ・フルプロパネート ・ペブレート ・ホスファミドン ・硫化カルボニル <ul style="list-style-type: none"> ・2,2-DPA (DPA) ・イマザメタベンズメチルエステル ・オキサベトリニル ・カルベタミド ・クロロネブ ・テブチウロン ・トリフロキシスルフロ ・ピリチオバックナトリウム塩 ・フラチオカルブ ・フロラスラム ・ベンスリド (SAP) ・メトスラム </div> <p><u>本品目が国内外において、食用及び飼料の用に供される農作物に使用される可能性は低いと考えられ、かつ本品目が国内において農作物に使用されておらず、かつ本品目が使用された農作物が輸入されていないことを前提とした場合、当該残留基準の削除については、食品安全基本法第11条第1項第2号の人の健康に及ぼす悪影響の内容及び程度が明らかであるときに該当する。</u></p>
<p>農薬及び動物用医薬品 (3品目)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・アザメチホス ・フェノトリン ・テトラクロルピホス (CVMP) <p><u>本品目が国内外において、食用及び飼料の用に供される農作物並びに食用に供される動物及び食用に供される乳、卵等の生産物を生産している動物に使用される可能性は低いと考えられ、かつ本品目が国内において農作物及び動物に使用されておらず、かつ本品目が使用された農作物及び動物の肉、乳その他の食用に供される生産物が輸入されていないことを前提とした場合、当該残留基準の削除については、食品安全基本法第11条第1項第2号の人の健康に及ぼす悪影響の内容及び程度が明らかであるときに該当する。</u></p>
<p>動物用医薬品 (28品目)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・アスポキシシリン ・塩酸メトセルペイト

	<ul style="list-style-type: none"> ・オキサシリン ・脂肪族アルコールエトキシレート ・スルファグアニジン ・スルファトロキサゾール ・スルファニルアミド ・スルファプロモメタジンナトリウム ・スルファメトキシピリダジン ・セファセトリル ・トリペレナミン ・バクイノレート ・ハロクソン ・フェンプロスタレン ・メチルベンゾグエート(ネクイネート) ・キタサマイシン ・スルファエトキシピリダジン ・スルファセタミド ・スルファニトラン ・スルファピリジン ・スルファベンズアミド ・スルファメラジン ・テメホス ・ノボビオシン ・バクイロプリム ・ファムフル ・ポリミキシンB ・ライドロマイシン <p><u>本品目が国内外において、食用に供される動物及び食用に供される乳、卵等の生産物を生産している動物に使用される可能性は低いと考えられ、かつ本品目が国内において動物に使用されておらず、かつ本品目が使用された動物の肉、乳その他の食用に供される生産物が輸入されていないことを前提とした場合、当該残留基準の削除については、食品安全基本法第11条第1項第2号の人の健康に及ぼす悪影響の内容及び程度が明らかであるときに該当する。</u></p>
汚染物質等（1案件）	<ul style="list-style-type: none"> ・食品衛生法（昭和22年法律第233号）第11条第1項の規定に基づき定められた、食品、添加物等の規格基準（昭和34年厚生省告示第370号）の清涼飲料水のヒ素の試験法からのグットツァイト法の削除 <p><u>食品安全基本法第11条第1項第1号の食品健康影響評価を行うことが明らかに必要でないときに該当することを確認。</u></p>
かび毒・自然毒等（1件）	<ul style="list-style-type: none"> ・佐賀県及び佐賀県内事業者が提案する養殖から提供まで管理された方法により取り扱われる養殖トラフグの肝臓 <p><u>現時点の知見及び提出された試験・検討結果からは、提案された方法により陸上養殖されたトラフグの肝臓について、個別の毒性検査を行うことにより、食品としての安全性が確保されると確認することはできない。今回の提案は、従来、可食部位ではなかった部位の一部分を機器分析により個別検査し、TTX濃度が検出下限値以下であれば販売等を認めるという、新たな管理体制への移行を求めるものである。このような管理体制の変更については、下痢性貝毒の管理方法の変更の際と同様、まずは、機器分析のデータを十分に蓄積する必要がある。その上で、致死以外の影響も含め、詳細な毒性データに基づいて人への健康影響について検討を行う必要があると考える。</u></p>
遺伝子組換え食品等（1件）	<ul style="list-style-type: none"> ・除草剤グリホサート耐性セイヨウナタネDP-073496-4並びに除草剤グルホシネート耐性及び稔性回復性セイヨウナタネRF

	<p>3を掛け合わせた品種 <u>「遺伝子組換え食品（種子植物）の安全性評価基準」に基づき評価した結果、ヒトの健康を損なうおそれはないと判断した。</u></p>
<p>特定保健用食品（1件）</p>	<p>・松谷のミニビスケット <u>提出された資料に基づく限りにおいて安全性に問題はないと判断した。ただし、乳幼児を含む小児が本食品を摂取することの安全性は確立されておらず、このことについて注意喚起表示が必要である。加えて、本食品が菓子（ビスケット類）であること及びその形態を考慮すると、過剰摂取を避けるためのより明確な注意喚起表示が必要である。</u></p>

(3) その他

- ・平成29年度食品安全委員会運営計画を決定
- ・薬剤耐性（AMR）対策アクションプランに係る食品安全委員会行動計画2016-2020を決定
- ・平成29年度食品安全モニターについて報告

2. 専門調査会等の運営

専門調査会等名	開催回数	調査審議案件
企画等	1回	<ul style="list-style-type: none"> 平成28年度食品安全委員会が自ら行う食品健康影響評価の案件候補の選定 平成29年度食品安全委員会運営計画 平成28年度食品安全委員会緊急時対応訓練結果及び平成29年度食品安全委員会緊急時対応訓練計画
添加物	1回	<ul style="list-style-type: none"> 加工助剤に関する食品健康影響評価指針
農薬	3回	<ul style="list-style-type: none"> 2, 4-D ピラジフルミド マイクロブタニル E P N ジノテフラン メタアルデヒド クロラントラニリプロール フルチアニル プロシミドン キャプタン フェンキノトリオン フロメトキン ホルペット マンジプロパミド メピコートクロリド アミノシクロピラクロル カズサホス メタフルミゾン
幹事会	3回	<ul style="list-style-type: none"> アミノシクロピラクロル カズサホス プロピコナゾール シペルメトリン
評価第一部会	3回	<ul style="list-style-type: none"> プロシミドン メタフルミゾン シアゾファミド フェンブコナゾール デスメディファム
評価第二部会	3回	<ul style="list-style-type: none"> クロラントラニリプロール フルチアニル ジクロルプロップ フェニトロチオン
評価第三部会	3回	<ul style="list-style-type: none"> ジシクラニル ワクチン添加剤 デキサメタゾン
動物用医薬品	3回	<ul style="list-style-type: none"> ジシクラニル ワクチン添加剤 デキサメタゾン
汚染物質等	1回	<ul style="list-style-type: none"> 平成26～27年度食品健康影響評価技術研究「食品中ヒ素の代謝物ジメチルモノチオアルシン酸の発がん性に関する研究」報告

微生物・ウイルス	1回	<ul style="list-style-type: none"> 平成28年度食品安全確保総合調査「カンピロバクター属菌及びノロウイルスのリスク評価の検討に関する調査」の調査結果報告
かび毒・自然毒等	3回	<ul style="list-style-type: none"> フモニシン
遺伝子組換え食品等	3回	<ul style="list-style-type: none"> TRP-No. 2株を利用して生産されたL-トリプトファン MDT06-228株を利用して生産されたエキソマルトテトラオヒドロラーゼ 絹糸抽出期における高雌穂バイオマストウモロコシM0N87403系統（食品・飼料） アクリルアミド産生低減及び打撲黒斑低減ジャガイモ（SPS-00E12-8）（食品・飼料） NZYM-BE株を利用して生産されたグルコアミラーゼ JPAo001株を利用して生産されたリパーゼ 除草剤グリホサート及びグルホシネート耐性トウモロコシMZGH0JG系統（食品・飼料） カイマックス M（CHY-MAX M）
肥料・飼料等	3回	<ul style="list-style-type: none"> ネオマイシン ブチルヒドロキシアニソール
栄養成分関連添加物WG	2回	<ul style="list-style-type: none"> 栄養成分関連添加物に関する食品健康影響評価指針
薬剤耐性菌WG	1回	<ul style="list-style-type: none"> ガミスロマイシンを有効成分とする豚の注射剤（ザクトラン メリアル） 薬剤耐性（AMR）対策アクションプランに係る食品安全委員会行動計画
清涼飲料水等WG	1回	<ul style="list-style-type: none"> 亜鉛 鉄 カルシウム・マグネシウム等（硬度）

3. 意見交換会の開催等

(1) 意見交換会（全6回）

開催日	開催地	意見交換会名	共催団体
1 / 20	岡山県	岡山県・食品安全委員会 共催意見交換会「食中毒のリスクについて考えよう！」	岡山県
1 / 30	福島県	食品に関するリスクコミュニケーション-食品中の放射性物質の検査のあり方を考える-	消費者庁 厚生労働省 農林水産省
2 / 2	東京都	食品に関するリスクコミュニケーション-食品中の放射性物質の検査のあり方を考える-	消費者庁 厚生労働省 農林水産省
2 / 17	大阪府	食品に関するリスクコミュニケーション-食品中の放射性物質の検査のあり方を考える-	消費者庁 厚生労働省 農林水産省
3 / 13	大阪府	食品に関するリスクコミュニケーション「食品の安全を守る取組～農場から食卓まで～」	消費者庁 厚生労働省 農林水産省
3 / 27	東京都	食品に関するリスクコミュニケーション「食品の安全を守る取組～農場から食卓まで～」	消費者庁 厚生労働省 農林水産省

(2) 講師派遣 (全9回、うち委員8回)

開催日	開催地	講演会名	依頼元
1/26	大阪府	シンポジウム1：環境化学物質の毒性影響とリスク評価－生活環境病から発がん影響まで－ *吉田委員	第33回日本毒性病理学会総会及び学術集会
2/2	長野県	コープながの「食の安全学習会」	生活協同組合コープながの
2/6	東京都	平成28年度アジア地域残留農薬基準設定調和促進委託事業 *吉田委員	一般財団法人残留農薬研究所
2/9	新潟県	平成28年度食品衛生監視員・環境衛生監視員合同研修会における特別講演 *堀口委員	新潟県
2/27	東京都	2016年度「GMP普及セミナー」 *堀口委員	公益財団法人日本健康・栄養食品協会
3/1	東京都	平成28年度食品衛生特別講演会 *佐藤委員長	公益社団法人日本食品衛生協会
3/1	東京都	残留農薬データ評価研修 *吉田委員	厚生労働省
3/10	群馬県	食品に関するリスクコミュニケーション *石井委員	群馬県
3/11	宮城県	平成28年度宮城県医師会環境保健研修会 *佐藤委員長	公益社団法人宮城県医師会

(3) 「精講：食品健康影響評価」

開催日：平成29年3月16日

開催場所：食品安全委員会会議室

テーマ：加熱時に生じるアクリルアミドの食品健康評価及び低減対策

4. 情報提供

(1) Facebook

委員会の活動や食品を通じて健康に被害を及ぼすおそれのある情報、国民の関心が高い食品安全に関する情報についての補足説明等について、機動的な情報提供

■ 1月 (18 記事・閲覧数約54,300件/月)

投稿日	記事内容
10	食品安全委員会 委員交代(新任山本委員)
11	「食品中の放射性物質の検査のあり方を考える」開催及び参加者の募集
12	報道関係者との意見交換会を開催しました
13	平成27年度食品安全モニター課題報告の調査結果
15	高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜の確認(岐阜県)
16	メルマガ【読み物版】いわゆる「健康食品」Q&A その1
17	「硫酸コリスチン」に関する薬剤耐性菌のリスク評価結果を通知
18	非定型BSEについて農研機構が新たな知見を発表しました
19	慶應大学大学院生がリスク評価の勉強をしました
	[告知]委員会開催について(1月24日(火)は開催しません)
20	「食品安全モニター」の応募締切り迫る！
23	岡山県との共催による意見交換会の開催結果
24	イギリスBBCの世界ニュースのサイトで、「FSAがアクリルアミドについて情報を発出した」という記事が報じられました
25	高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜(宮崎県)
27	メルマガ【読み物版】いわゆる「健康食品」Q&A
28	和歌山県で発生した給食を原因とする食中毒について(ノロウイルス)
30	季刊誌『食品安全』第49号の発行
	動物医薬品「酢酸メレンゲステロール」に係る食品健康影響評価

■ 2月（13記事・閲覧数約47,200件/月）

投稿日	記事内容
2	食品安全モニターへのご応募のお礼
3	第33回日本毒性病理学会総会及び学術総会で講演・展示
5	高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜（佐賀県）
6	いわゆる「健康食品」について学習会が開かれました（長野県）
13	【紹介】フキ（ふきのとう）に似た有毒植物に注意！
16	台所でスマホやタブレットを使った後に、手を洗いますか？（アメリカの消費者の「食の安全」に対する認識はどの程度）
20	食品に関するリスコミ「食品中の放射性物質の検査のあり方を考える」の開催結果（大阪）
21	精講：食品健康影響評価「加熱時に生じるアクリルアミドの食品健康影響評価及び低減対策」の開催と参加者募集
22	「アニサキス症」のファクトシートを更新しました
24	メルマガ【読み物版】 安心して生卵を食べられる国
	東京都で発生した給食を原因とする食中毒について（ノロウイルス）
28	食品に関するリスコミ「農場から食卓まで」の開催及び参加者の募集
	東京都で発生した給食を原因とする食中毒について（食材の検査結果が判明（キザミのり））

■ 3月（20記事・閲覧数約73,055件/月）

投稿日	記事内容
1	東京都立川市で発生した学校給食を原因とする食中毒について(3)
3	食品に関するリスクミ(大阪[1])[2月28日投稿記事のシェア]
6	食品に関するリスクミ(大阪[2])[2月28日投稿記事のシェア]
7	平成29年度食品安全確保総合調査の実施について(入札公告中)
10	「精講：食品健康影響評価」の応募のお礼
14	平成29年度食品安全確保総合調査の実施について(入札公告中)
14	「食品の安全を守る取組～農場から食卓まで～」を開催しました(4府省連携(3月13日大阪))
15	ご注意ください!乳幼児の食品による窒息事故が発生しています
16	「精講：食品健康影響評価」を開催しました(3月16日)
17	乳児ボツリヌス症にご注意ください!
21	メルマガ【読み物版】調理とリスクマネジメント
22	カレーを原因とするウエルシュ菌による食中毒について(東京都、滋賀県等)
24	高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜(宮城県)
	メルマガ【読み物版】調理とリスクマネジメント
27	食品安全委員会は「イクボス宣言」をしました!
28	「食品の安全を守る取組～農場から食卓まで～」(東京会場)を開催しました(3月27日)
	季刊誌『食品安全』第50号発行
29	薬剤耐性(AMR)対策アクションプランに係る食品安全委員会行動計画
30	英文電子ジャーナル Vol. 5, No. 1の公開
	[お知らせ]委員会開催について(4月4日(火)は開催しません)

(2) ブログ

メールマガジン【読物版】や健康に影響を及ぼすおそれのある危害に関する情報提供

■ 1月（5記事・閲覧数約2,600件/月）

配信日	記事内容
15	高病原性鳥インフルエンザに関する情報(岐阜県)
16	メルマガ【読み物版】いわゆる「健康食品」Q&Aその1
27	メルマガ【読み物版】いわゆる「健康食品」Q&Aその2
28	和歌山県でノロウイルスによる食中毒が発生
30	季刊誌『食品安全』第49号の発行

■ 2月（5記事・閲覧数約2,700件/月）

配信日	記事内容
23	メルマガ【読み物版】生卵が安心して食べられる国 その1
24	メルマガ【読み物版】生卵が安心して食べられる国 その2
	東京都立川市で発生した学校給食を原因とする食中毒について(1)
28	食品に関するリスコミ「農場から食卓まで」の開催及び参加者の募集
	東京都立川市で発生した学校給食を原因とする食中毒について(2)

■ 3月（15記事・閲覧数約4,539件/月）

配信日	記事内容
1	東京都立川市で発生した学校給食を原因とする食中毒について(3)
3	食品に関するリスクミ(大阪[1])[2月28日投稿記事のシェア]
6	食品に関するリスクミ(大阪[2])[2月28日投稿記事のシェア]
7	平成29年度食品安全確保総合調査の実施について(入札公告中)[1]
14	平成29年度食品安全確保総合調査の実施について(入札公告中)[2]
15	ご注意ください!乳幼児の食品による窒息事故が発生しています
17	乳児ボツリヌス症にご注意ください!
21	メルマガ【読み物版】調理とリスクマネジメント
22	カレーを原因とするウェルシュ菌による食中毒について(東京都、滋賀県等)
24	メルマガ【読み物版】調理とリスクマネジメント
27	食品安全委員会は「イクボス宣言」をしました!
28	「食品の安全を守る取組～農場から食卓まで～」(東京会場)を開催しました(3月27日)
	季刊誌『食品安全』第50号発行
29	薬剤耐性(AMR)対策アクションプランに係る食品安全委員会行動計画
30	英文電子ジャーナル Vol. 5, No. 1の公開

(3) メールマガジン【読物版】(約1万人に配信)

実生活に役立つ食品安全に関する情報を分かりやすく解説した情報等の提供

配信月	配信記事	記事内容
1	[生活の中の食品安全] いわゆる「健康食品」Q & A	いわゆる「健康食品」の安全性について、よく寄せられる相談をQ & A形式で紹介
2	[生活の中の食品安全] 安心して生卵を食べられる国	私たちの日々の食生活にとって身近な「生卵」を紹介
3	[生活の中の食品安全] 調理とリスクマネジメント	調理によるリスクマネジメントについての解説